

計画期間：平成 27 年 4 月～平成 32 年 3 月（5 年 0 月）

． 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 30 年度終了時点（平成 31 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

前計画では、再開発ビルの大規模リニューアルにより魅力的な商業環境を創出するとともに、地域資源を活用し、中心市街地に人々が回遊・滞留するための仕掛け作りを行い、商業の活性化を中心としたまちづくり活動の展開に取り組んできた。そして、核事業として進められてきたアステ川西の地下 1 階リニューアル事業等の実施により、川西能勢口駅周辺の魅力が回復した。さらに、川西市の中心市街地では、民間事業者による商業施設や住宅施設の整備、商業団体や商工会と市が中心となった様々なイベントが行なわれていたが、人をまちに長く滞在させることができなかったことが課題であった。

現計画で主要事業と位置付けている、駅周辺都市整備計画基本構想区域（約 38ha）の北に隣接する約 22.3ha の中央北地区（以下「キセラ川西」という。）での各種整備事業について、平成 30 年 9 月に文化及び福祉等関連施設が整備されているキセラ川西プラザがオープンし、市が実施するすべてのハード整備事業が完了した。キセラ川西プラザの文化棟にはキセラホールや古田敦也メモリアルギャラリーなどが整備されており、日常的な施設利用に加え、平日・休日問わずキセラホールを利用した催しが行われており、平成 29 年度にオープンしたキセラ川西せせらぎ公園と共に新たなにぎわい・市民の憩いの場が創出できている。

このほか中心市街地における魅力的でにぎわいのあるまちづくり、まちを回遊・滞留するためのネットワーク構築、様々なイベント事業の展開などを、川西市中心市街地活性化協議会を中心に、商店会や商業団体、商工会等との連携で実施するなど、以前にも増してにぎわいが創出されたと考えられる。

その中でも平成 30 年度は、地域に根差したネットワークがあり、自らがまちのキーパーソンとして活躍している者がタウンマネージャーに就任したことにより、既存のイベント事業等に新たな試みを加えるなど、様々なチャレンジを地域全体で行うことができた。特に、平成 29 年度から新規事業として追加した「藤ノ木さんかく広場整備・運営事業」は、市民や商業者等が主体となって、大小様々なイベントを開催し、平成 30 年度の利用実績は、118 件（平成 29 年度は 29 件）にも増加した。

しかし、来街者は川西能勢口駅前とキセラ川西地区にのみ滞在し、まち全体を回遊しなかったため、賑わいはそのエリアだけの限定的なものとなっている。また、中心市街地の事業所数などは減少傾向にあり、市内及び近隣市の年間販売額を比較すると近隣市に買い物客が流出していることが判明した。

課題解決のためにも、計画の最終年度は、多くの市民の協力のもと、商業者・商店会、商工会・まちづくり組織と行政が一丸となって取り組み、まち全体に日常的なにぎわいを創出し、川西能

勢口駅とキセラ川西、藤ノ木さんかく広場を回遊したくなるような魅力ある中心市街地エリアの創出に取り組んでいきたいと考えている。

**【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】**

(基準日: 毎年度 3 月 31 日)

(中心市街地 区域)	平成 26 年度 (計画前年度)	平成 27 年度 (1 年目)	平成 28 年度 (2 年目)	平成 29 年度 (3 年目)	平成 30 年度 (4 年目)
人口	8347	8429	8615	8737	8801
人口増減数	82	82	186	122	64
自然増減数	-25	-19	-31	-11	0
社会増減数	38	101	220	124	58
転入者数	656	437	497	435	458

**2. 平成 30 年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

川西市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整を重ねながら、活性化事業に対して、意見や提案を行ってきた。基本計画に位置づけられた事業は概ね順調に進捗しているものと考えている。

中心市街地の現況としては、平成 29 年度にオープンしたキセラ川西せせらぎ公園等に引き続き、平成 30 年度にはキセラ川西プラザがオープンし、キセラ川西エリアに更なるにぎわいが創出されている。また、中心市街地エリアに新たな飲食店が複数オープンするなど、まち全体ににぎわいが生まれている。

平成 30 年度は、川西市内で活躍するまちのプレーヤーがタウンマネージャーに就任したことにより、既存事業も継続するだけでなく、「藤ノ木さんかく広場整備・運営事業」を利用し、相乗効果を狙い、イベントを同時開催するなど、事業内容の追加や変更を行った。

しかし、歩行者・自転車通行量(休日)は昨年度より微減になっており、目標値には達していない。課題解決のためにも、平成 31 年度はタウンマネージャーを 2 人体制にすることにより、既存事業を継続して行うだけでなく、中心市街地エリアの新たな事業者などを巻き込み、地域に根差した新たなイベントの実施を行うことで中心市街地エリアの活性化及び川西能勢口駅、キセラ川西、藤ノ木さんかく広場の回遊性に官民一体となって取り組む所存である。

・目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造	歩行者・自転車通行量(休日)	67,830 人 / 日 (H26)	71,727 人 / 日 (H31)	66,026 人 / 日 (H30)	C		
	来街者の平均滞留時間	2.04 時間 (H26)	2.42 時間 (H31)	2.77 時間 (H30)	A		
	年間商品販売額(小売業) 参考指標	49,000 百万円 (H26)	54,000 百万円 (H31)	44,853 百万円 (H28)	C	-	
暮らしとなる魅力的な中心市街地の創造	人口の社会増減	4 人 / 年 (21fy-24fy 平均)	106 人 / 年 (27fy-31fy 平均)	126 人 / 年 (27fy-30fy 平均)	A		
	年間商品販売額(小売業) 参考指標	49,000 百万円 (H26)	54,000 百万円 (H31)	44,853 百万円 (H28)	C	-	

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値達成、C : 基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「来街者の平均滞留時間」については、キセラ川西プラザのオープンや中心市街地エリアでの様々なイベントにより、まちなかににぎわいが創出され、目標が既に達成となった。

「人口の社会増減」については、キセラ川西でキセラ川西プラザのオープンや民間マンション、民間の複合型商業施設の建設が進み、都市機能が増進していることから、目標が既に達成となった。

「年間商品販売額(小売業)」については、基準値から減少しており、最終フォローアップ時においても現在の経済センサスの数値となるため、目標達成は見込めない。しかし、令和元年8月に(仮称)キセラ川西商業複合施設が開業予定であり、新たな商業拠点として集客や賑わいの創出が考えられること、店舗面積が当初予定していた10,000㎡から15,000㎡に増加していること

から、次回の経済センサス公表時には目標数値を達成すると見込まれる。

### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

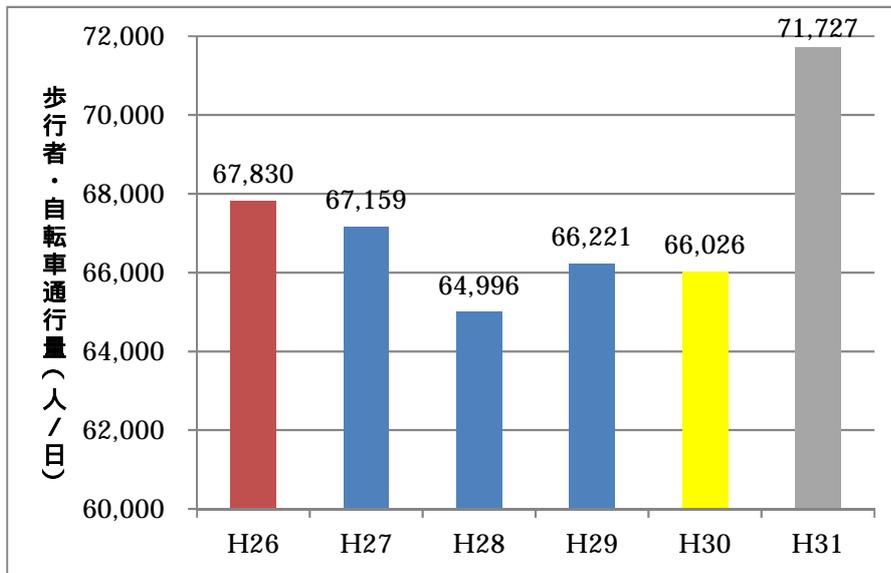
「歩行者・自転車通行量（休日）」

平成29年度は駅前商業施設のリニューアルやキセラ川西せせらぎ公園とせせらぎ遊歩道がオープンした影響から増加に転じ、目標達成の見通しが立ったが、平成30年度は想定よりも通行量が伸びず、前年度比195人減のため見通しを変更した。

#### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（休日）」 目標設定の考え方基本計画 P68～P72 参照

##### 調査結果の推移



年	(単位)
H26	67,830 人/日 (基準年値)
H27	67,159 人/日
H28	64,996 人/日
H29	66,221 人/日
H30	66,026 人/日
H31	71,727 人/日 (目標値)

調査方法：歩行者・自転車通行量調査

調査月：毎年11月実施

調査主体：川西市中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地における休日10地点の歩行者及び自転車数

#### 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

.08：キセラ川西プラザ整備事業（川西市）

事業実施期間	平成26年度～平成30年度【済】
事業概要	中心市街地において、人々のあいとふれあいの場の創出を図るために位置付けている事業であり、文化ホールに加えて、福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設を整備することで、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らしにぎわい再生事業（中央北地区））（国土交通省）（平成28年度～平成30年度）
事業効果及び進捗状況	平成30年9月に福祉等関連施設、11月に文化関連施設がオープンした。 オープン後は、施設利用者の日常的な利用に加えて、フリースペース等が市民の憩いの場として利用されており、にぎわいの創出につながるが見込まれる。 歩行者通行量について、調査地点、の合計が34,869人で前年度より709人減少、調査地点、の合計が2,253人で前年度より40人増加している。
事業の今後につ	事業は完了しているため、今後は、施設の効果的な運用を行うこと

いて	により、日常のにぎわいの創出の場となることが期待される。
----	------------------------------

. 06：中央公園整備事業（川西市）

事業実施期間	平成24年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成24年度～平成31年度]
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる公園で、周辺には総合体育館や市民温水プールなどがあり、これらの施設との連携が期待される。市民の憩いの場であるとともに、防災機能を有した公園を整備することで、安全で快適な中心市街地を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省）（平成24年度～平成29年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省）（平成24年度～平成31年度）]
事業効果及び進捗状況	平成29年7月8日に防災機能を有するキセラ川西せせらぎ公園（中央公園）が開園した。 開園後は、老若男女問わず日常的な利用が行われており、市民の憩いの場となっている。また、市民が主体となったイベントも積極的に実施されており、公園及びまちの活性化につながるが見込まれる。 歩行者通行量について、調査地点、の合計が34,869人で前年度より709人減少、調査地点、の合計が2,253人で前年度より40人増加している。
事業の今後について	事業は完了しているが、今後も公園の活用方法や検討を行うことによって、まちの活性化につなげていく。

. 05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）

事業実施期間	平成27年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成27年度～平成28年度]
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる遊歩道を整備することにより、キセラ川西内の回遊性を高めるとともに、コミュニケーションの場としての空間を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生区画整理事業・効果促進事業）（国土交通省）（平成27年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	平成29年4月3日にせせらぎ遊歩道南線が、11月27日にせせらぎ遊歩道北線が開通した。 開通後は、ワークショップで結成された自然観察チームやホテル復活プロジェクトのメンバーの活躍の場になっており、市民に親しまれる遊歩道になることが期待される。 歩行者通行量について、調査地点、の合計が34,869人で前年度より709人減少、調査地点、の合計が2,253

	人で前年度より40人増加している。
事業の今後について	事業は完了しているが、今後は遊歩道の景観を維持し、公園との一体的な活用により、まちの活性化につなげていく。

11：キセラ川西マンション建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観の実現されることで賑わいが創出されたことで、202戸すべてが契約済みとなった。 歩行者通行量について、調査地点、の合計が34,869人で前年度より709人減少、調査地点、の合計が2,253人で前年度より40人増加している。
事業の今後について	事業は完了しているため、今後はキセラ川西せせらぎ公園等の運営などでにぎわいを創出しながら、中心市街地の居住人口を維持していくことに努める。

目標達成の見通し及び今後の対策

（歩行者通行量について（地点についてはいずれも基本計画書69頁参照。以下同じ。））

- 1．地点別通行者数を分析すると、最も通行量が多いのが地点（川西能勢口駅南の歩行者デッキ）で2万人程度の通行量となっている。次いで、地点（アステ川西南側の歩行者デッキ）、地点（川西能勢口駅北の歩行者デッキ）が1万人規模の通行量となっている。～の3地点で、前回調査同様に駅周辺総通行量の6割以上を占め、川西能勢口駅を中心とした人の流れが形成されている。
- 2．平成29年度に実施した前回の調査と比較すると、全体的に減少しているが、その中でも平日の地点（モザイクボックス西の歩道）の減少が著しく、30.3%減少している。平成29年度に地点に新たな商業施設が開設されたため、人の流れが変わったものと考えられていたが、通行量は平成28年度以前の数値より微増の数値に戻っている。しかし、地点の休日の通行量については、約500人の微減となっている。これは、商業施設ができたことにより、一定の歩行者通行量が維持できていることが考えられる。

（自転車通行量について）

- 1．自転車通行量については地点及びにおいて測定している。

2. 歩行者通行量と同じく、平日の自転車通行量の数が休日の自転車通行量を上回っている。前年度と比べ、休日の自転車通行量が微増している。これは、キセラ川西プラザがオープンしたことやキセラ川西せせらぎ公園がオープンして1年が経過したことから、利用者が増加したことが影響していると考えられる。

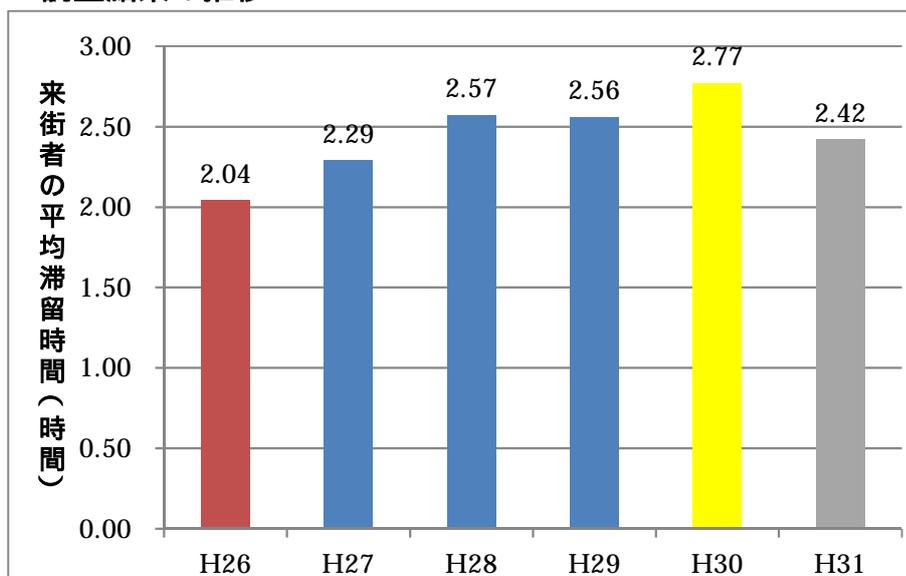
(総括)

歩行者通行量の目標に関する事業としては、川西能勢口駅周辺での商業振興を目的としたイベント事業を前年度から引き続き実施している。しかし、平成29年度からは全体の数字が微減している。その原因としては、まち全体を回遊するルートの構築ができていないことである。主要事業であるキセラ川西のハード整備事業が完了しつつあるが、キセラ川西と川西能勢口駅前の2つの拠点があるにも関わらず、賑わいがそのエリアだけの限定的なものになっている。また、バルなどのまちなかを歩くイベントを開催するも、イベント内容のマンネリ化が続いており、新規参加者を確保できていないことや来街者を増やすことにもつながっていない。

課題解決のためにも、今年度も、まちの魅力を伝えるために「川西まちなか美術館」といったまちなかを歩くイベントの開催を継続的に実施していくほか、「藤ノ木さんかく広場」でのイベントを前年度より発展させ、市民が主体的に参加できるイベントを定期的の実施していき、キセラ川西と川西能勢口駅周辺を中心とした2つの拠点の回遊性を高めていく。また、実験的に新規イベント事業を誘致するなど新たな試みを行い、基本計画に掲げる基本方針の一つである『市民活動・交流が活発な、みんなが行きたくなる魅力あふれるまち』を目指し、歩行者通行量の増加を目指していく。

「来街者の平均滞留時間」 目標設定の考え方基本計画 P72～P76 参照

調査結果の推移



年	(単位)
H26	2.04 時間 (基準年値)
H27	2.29 時間
H28	2.57 時間
H29	2.56 時間
H30	2.77 時間
H31	2.42 時間 (目標値)

調査方法：まちなか滞留・実感調査（アンケート）

調査月：6～7月

調査主体：(株)地域環境計画研究所

調査対象：川西能勢口駅周辺

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

. 08：キセラ川西プラザ整備事業（川西市）

事業実施期間	平成26年度～平成30年度【済】
事業概要	中心市街地において、人々のあいとふれあいの場の創出を図るために位置付けている事業であり、文化ホールに加えて、福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設を整備することで、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らしにぎわい再生事業（中央北地区））（国土交通省）（平成28年度～平成30年度）
事業効果及び進捗状況	平成30年9月に福祉等関連施設、11月に文化関連施設がオープンした。 オープン後は、施設利用者の日常的な利用に加えて、フリースペース等が市民の憩いの場として利用されており、にぎわいの創出につながるが見込まれる。
事業の今後について	事業は完了しているため、今後は、施設の効果的な運用を行うことにより、日常のにぎわいの創出の場となることが期待される。

. 06：中央公園整備事業（川西市）

事業実施期間	平成24年度～平成29年度【済】
--------	------------------

	[認定基本計画：平成24年度～平成31年度]
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる公園で、周辺には総合体育館や市民温水プールなどがあり、これらの施設との連携が期待される。市民の憩いの場であるとともに、防災機能を有した公園を整備することで、安全で快適な中心市街地を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省）（平成24年度～平成29年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省）（平成24年度～平成31年度）]
事業効果及び進捗状況	平成29年7月8日に防災機能を有するキセラ川西せせらぎ公園（中央公園）が開園した。 開園後は、老若男女問わず日常的な利用が行われており、市民の憩いの場となっている。また、市民が主体となったイベントも積極的に実施されており、公園及びまちの活性化につながることが見込まれる。
事業の今後について	事業は完了しているが、今後も公園の活用方法や検討を行うことによって、まちの活性化につなげていく。

．05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）

事業実施期間	平成27年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成27年度～平成28年度]
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる遊歩道を整備することにより、キセラ川西内の回遊性を高めるとともに、コミュニケーションの場としての空間を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生区画整理事業・効果促進事業）（国土交通省）（平成27年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	平成29年4月3日にせせらぎ遊歩道南線が、11月27日にせせらぎ遊歩道北線が開通した。 開通後は、ワークショップで結成された自然観察チームやホテル復活プロジェクトのメンバーの活躍の場になっており、市民に親しまれる遊歩道になることが期待される。
事業の今後について	事業は完了しているが、今後は遊歩道の景観を維持し、公園との一体的な活用により、まちの活性化につなげていく。

．35：きんたくんバル（中心市街地活性化協議会、きんたくんバル実行委員会）

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	川西能勢口周辺の美味しい・楽しいお店を広く知ってもらうために、各店舗をPRするとともに、「食べ歩き、飲み歩き」のイベントを実施し、来街者に参加してもらうことでにぎわいを創出する。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度は春1回実施し、36店舗の参加があった。滞留時間の創出には「食事・喫茶」が必須の機能であり、バル独特の雰囲気、普段行き慣れない店にも気軽に立ち寄れることから、消費効果に加え、来街時に普段使いしてもらえる店舗を増やす効果も見込んでいる。また、新たな客及び参加店舗を呼び込むため、秋は「川西バル 2018 秋」とネーミングを変え、チケットレスやバルアプリの利用など、初の試みを多く行い、賑わいを創出した。
事業の今後について	これまで行政中心で事業を行い、見直し・検討を繰り返し、様々なことにも挑戦したが、店舗参加数は年々減少しつつある。今後については、他のイベントなどに組み合わせながら、更なるにぎわいの創出とまちなかを回遊したくなる仕組みづくりを検討していく。

### 目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地内の滞留時間を計測したところ、平日で3.09時間、休日で2.46時間と平日のほうが長く、全体の平均時間は2.77時間と、前回調査から0.21時間増加し、2.42時間という計画上の目標値を達成した。

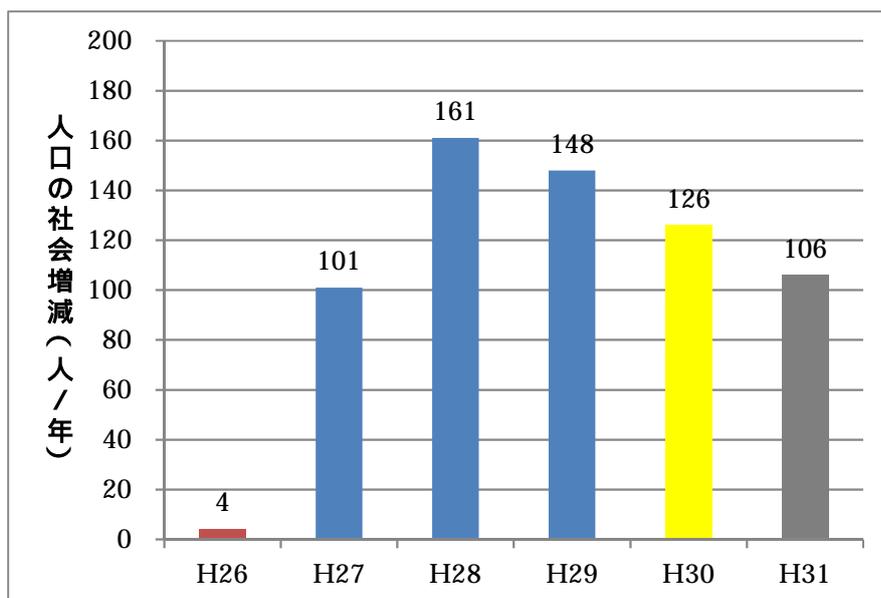
アンケートで特筆すべき部分は、新設の質問である「キセラ川西せせらぎ公園」と「藤ノ木さんかく広場」に訪れたことがあるかどうかという質問である。

「キセラ川西せせらぎ公園」の結果については、来園状況は約3割弱であり、認知度が低い結果となった。また、キセラ川西せせらぎ公園の来園者の満足度は「とても満足 or 満足」が合わせて4割に留まった。自由記述の意見の中には、設備面の不満が多数あり、具体的には遊具やベンチの少なさがあげられる。

「藤ノ木さんかく広場」の結果については、来園状況は約2割強であり、「知らなかった or 訪れたことがない」が全体の半数以上を占めており、市内外での認知度は低いことが判明した。しかし、「よく訪れる or 訪れたことがある」人の内訳を見ると、広場に近い地域の居住者の回答が多かった。近隣の居住者には、広場の活用や活動について一定の支持が得られていると考えられる。自由記述では「座れる場所がほしい」「休憩できる場所や雰囲気になれば」という意見であった。

今回の調査で「キセラ川西せせらぎ公園」及び「藤ノ木さんかく広場」に共通して求められていることとしては、ベンチなどの座れる場所の確保や休憩できる場所が必要とされている点である。双方での休憩場所の改善が滞留時間の増加につながることから、今後、検討していきたいと考えている。また、引き続き双方の場所を利用したイベントなどを実施していくことによって、日常的なにぎわいと回遊性を創出し、更なる滞留時間の増加を目指したい。

「人口の社会増減」 目標設定の考え方基本計画 P77～P79 参照  
調査結果の推移



年	(単位)
H26	4人/年 (21fy-24fy平均) (基準年値)
H27	101人/年 (27fy-31fy平均)
H28	161人/年 (27fy-31fy平均)
H29	148人/年 (27fy-31fy平均)
H30	126人/年 (27fy-31fy平均)
H31	106人/年 (27fy-31fy平均) (目標値)

調査方法：住民基本台帳データから毎年度の人口の社会増減集計

調査月：毎年4/1現在

調査主体：川西市

調査対象：中心市街地エリア（10地域）

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

．11：キセラ川西マンション建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観の実現されることで賑わいが創出されたことで、202戸すべてが契約済みとなった。 歩行者通行量について、調査地点、の合計が34,869人で前年度より709人減少、調査地点、の合計が2,253人で前年度より40人増加している。
事業の今後について	事業は完了しているため、今後はキセラ川西せせらぎ公園等の運営などでにぎわいを創出しながら、中心市街地の居住人口を維持して

いくことに努める。

12：サービス付高齢者向け住宅施設整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	高齢者の居住機能の強化を図るために、川西能勢口駅前にサービス付住宅施設を整備することで、中心市街地の居住機能を向上させる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年7月から事業を開始している。平成29年4月現在、55戸数のほぼすべて埋まっていることから、中心市街地における社会増に寄与しているものと考えられる。
事業の今後について	事業は完了しているため、今後も居住機能を高めていく施設として、中心市街地の社会増に寄与していくものと考えている。

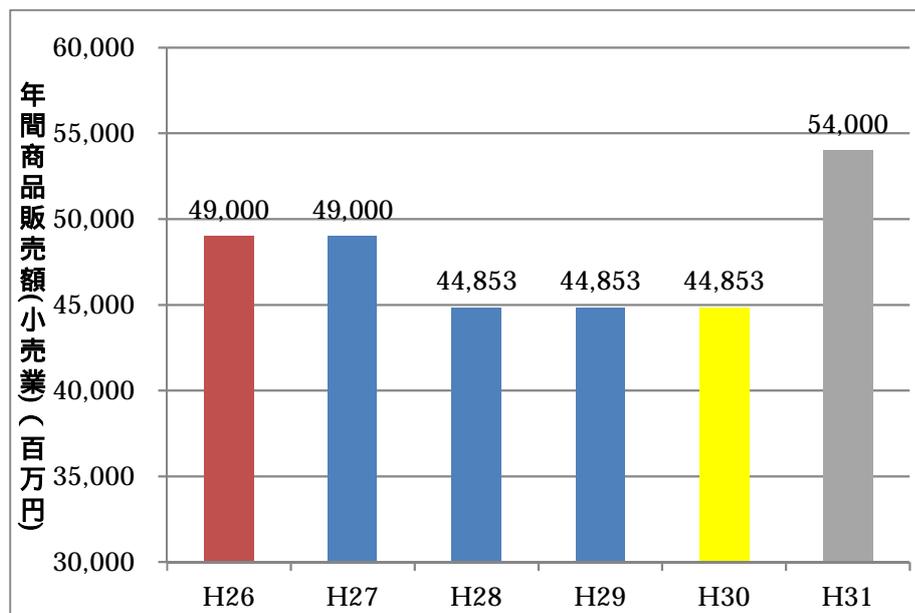
**目標達成の見通し及び今後の対策**

平成31年4月1日時点において、中心市街地の人口の社会増減は前年度までの平均値と比べると減少したが、社会増状態が継続しており、今年度も目標値である106人を達成することができた。

対象10地域を地域別に分けて傾向を推し量ると、火打1丁目が最も大きな社会増を計上している。これは、キセラ川西エリア内に新たな民間マンションやサービス付き高齢者住宅が完成し、入居したことが要因と考えられる。反面、栄根2丁目、栄町地域においては、同地域からの転出、市内転居が多く見られた。

また、中心市街地エリア内で建設中の（仮称）キセラ川西商業複合施設整備事業の完成や、今後、（仮称）市立総合医療センター及び民間保育施設や市立認定こども園の整備などが行われることから、中心市街地への居住の需要は増加すると考えられるため、更なる社会増が見込まれる。

参考指標「年間商品販売額（小売業）」 目標設定の考え方基本計画 P80～P82 参照  
 調査結果の推移



年	(単位)
H26	49,000 百万円 (基準年値)
H27	49,000 百万円
H28	44,853 百万円
H29	44,853 百万円
H30	44,853 百万円
H31	54,000 百万円 (目標値)

調査方法：経済センサス活動調査

調査主体：川西市

調査対象：中心市街地の小売業店舗

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

.07：(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	キセラ川西に温浴施設を含む商業複合施設を整備することで、中心市街地の利便性やサービス機能を高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	当初の予定より少し遅れているが、令和元年8月開業に向けて工事が進められている。開業後は約115億円の商品販売額を見込んでいる。
事業の今後について	開業後はキセラ川西地区の新たな商業拠点として、集客や賑わいの創出の役割が期待されるとともに、キセラ川西地区でのイベントに協力してもらうことで回遊性の向上を図っていく。

目標達成の見通し及び今後の対策

平成28年度経済センサス活動調査において、中心市街地の年間商品販売額（小売業）は約448億円となっており、平成24年度の412億円を上回ったが、基準値の490億円から減少状態となった。また、最終フォローアップ時には現在の経済センサスの数値となるため、目標達成は見込めない。

しかし、目標達成に資する事業である「(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業」は令和元年

8月に開業予定であり、開業後はキセラ川西地区の新たな商業拠点として集客や賑わいの創出に寄与すると考えられることと、店舗面積が当初予定していた10,000㎡から15,000㎡に増加していることから、次回の経済センサス公表時には目標数値を達成すると見込まれる。